編集の基本方針

「どうしてかな？」「こうじゃない？」
「なるほど」「わかった！」
算数の時間には、子どもたちから
いろいろな声が聞こえてきます。
それは、算数の中に、考えるおもしろさ、
発見する喜び、理解できたときの充実感など、
心が動く瞬間がたくさんあるからです。
その瞬間こそが子どもの学力を育てると信じ、
私たちはこの教科書を編集しました。

「わかる・できる・つなげる・いかす」算数の学び

1

筋道立てて考え
表現するための学び方を
はっきり示します。

主体的・対話的で
深い学びの実現

2

生活や学習の
基盤となる算数の礎を
きっちり築き上げます。

基礎的・基本的な力の
確実な定着

3

算数の楽しさやよさを
しっかり
感じられるようにします。

生活や学習への
活用場面の充実

1

自分で考え、
みんなで学び合うことを
楽しめます。

2

たしかな基礎力が
自信に
つながります。

3

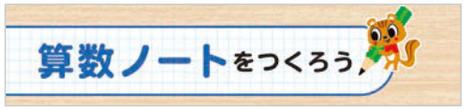
身近に算数を感じ、
幅広く
いかせます。

教科書の構成

巻頭 ▸▸ 単元 特設 単元 特設 ▸▸▸ 巻末 ➡ p.20

巻 頭

さあ、算数の学習をはじめよう！
授業開きとして使える最初のページ ➡ 本資料 p.22



算数ノートをつくろう
算数のノートのかき方をくわしく説明したページ ➡ 本資料 p.23

教科書の使い方
教科書に配置されたコーナーの役割、
マークの意味をまとめたページ

単 元

次の学習のために
新しい単元にはいる前に
既習事項の確認ができるページ ➡ 本資料 p.32

単元アプローチ
各単元に対応した、子どもたちの好奇心に
働きかけるページ ➡ 本資料 p.38

自分で みんなで
「主体的・対話的で深い学び」を実現するページ ➡ 本資料 p.24

使ってみよう
学んだことを生活にいかすページ ➡ 本資料 p.38

わかっているかな
単元で学んだ内容を見直すページ

まちがいやすい問題 …… 子どもがつまずきやすい問題
見方・考え方をみがこう …… 数学的な「見方・考え方」を価値づける問題 ➡ 本資料 p.34

たしかめよう
単元で学んだ内容の定着・確認を図るページ ➡ 本資料 p.35

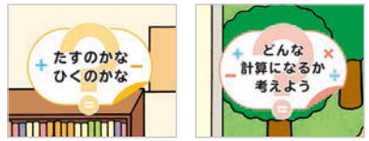
○○の学習をふり返ろう。
単元全体の学習のふり返り ➡ 本資料 p.28

マークの紹介

1	新しい問題	めあて まとめ	1時間の「めあて」と「まとめ」 ➡ 本資料 p.26
見方・考え方	算数で使いたい「見方・考え方」 ➡ 本資料 p.27		定義（用語・記号）
1	練習問題 ➡ 本資料 p.33	うごかす	デジタルコンテンツ ➡ 本資料 p.6
	電卓を使ってもよい問題（4、5、6年）	中学	中学接続マーク（5、6年） ➡ 本資料 p.13

特 設

算数ジャンプ
学んだ内容を深める問題や、他教科や
日常生活と結びつけた問題を扱うページ ➡ 本資料 p.39



**たすのかな ひくのかな
どんな計算になるか考えよう**
問題を読み、どんな式を立てるか考える
演算決定のページ

レッツ プログラミング
プログラミング的思考のページ ➡ 本資料 p.9

なるほど算数
算数に関わるさまざまな話題を
取り上げたページ

復習
学期ごとの学習内容を
確認する復習ページ ➡ 本資料 p.34

○年の復習
学年全体の学習内容を
確認する復習ページ ➡ 本資料 p.34

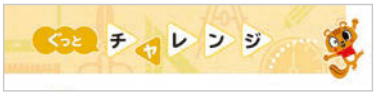
マテマランド探検しよう！（6年）
小学校の学習内容を数学の世界へと
広げるコーナー ➡ 本資料 p.13

もうすぐ中学生（6年）
中学校数学の内容に
簡単に触れるコーナー ➡ 本資料 p.13

巻末

算数マイトライ　家庭学習や学校でのさまざまな場面に利用できる豊富な問題

しっかりチェック
各時間に対応した補充問題
（難易度別構成）



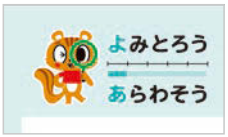
ぐっとチャレンジ
各単元に対応した
応用的・発展的な問題

もっとジャンプ
複数の単元の内容を横断した
探究的な問題

➡ 本資料 p.14、40

○○までに学習したこと
前学年または前巻の教科書までに
学習したことを一覧にしたページ

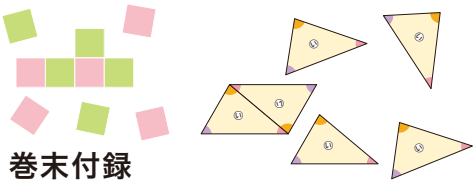
➡ 本資料 p.33



よみとろう　あらわそう
ことばと図・式の関係や、テープ図・数直線図の
よみ方・かき方をまとめたページ

➡ 本資料 p.35

さくいん
教科書に出てくる大切なことばの一覧



巻末付録
切り取って使える巻末付録

巻末シート

【表】

学び方ガイド
学び方の４ステップを
まとめたシート

➡ 本資料 p.26

【裏】

**算数で使いたい
見方・考え方**
「見方・考え方」を
整理した一覧

➡ 本資料 p.27

いっしょに算数を学習する友だち

はるとさん　さくらさん　そうたさん　ゆいさん　りくさん　ひまりさん　クリン

各学年６人の友だちが、見通しを立てたり、自分の考えを発表したりして、
一緒に学習していく設定になっています。
クリンは、活動を示唆したり、作業内容の確認を促したりして、学習活動をサポートします。